

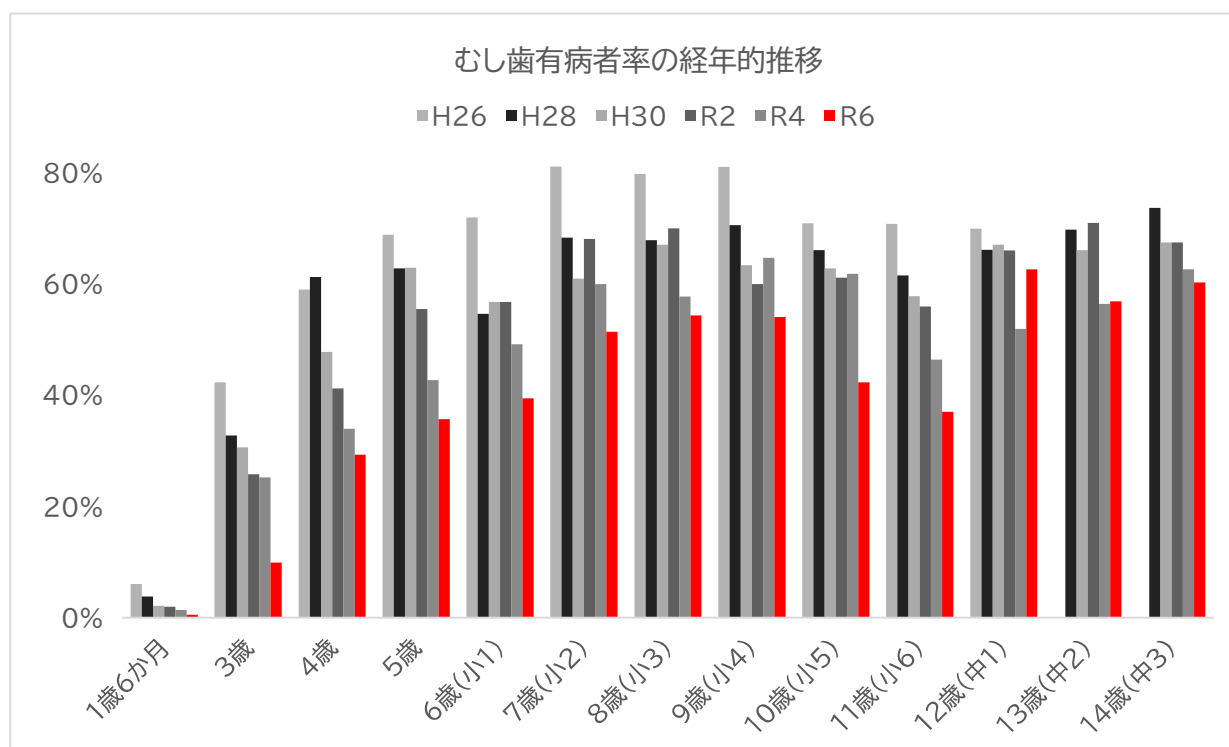
南島原市の子どもの歯科保健の現状と課題

出典:母子保健実績報告・学校保健会報(公立学校のみ)

1 南島原市の近年の状況を見てみました

(1) 経年的推移

むし歯有病率は、ほぼすべての年代で改善傾向を示しています。

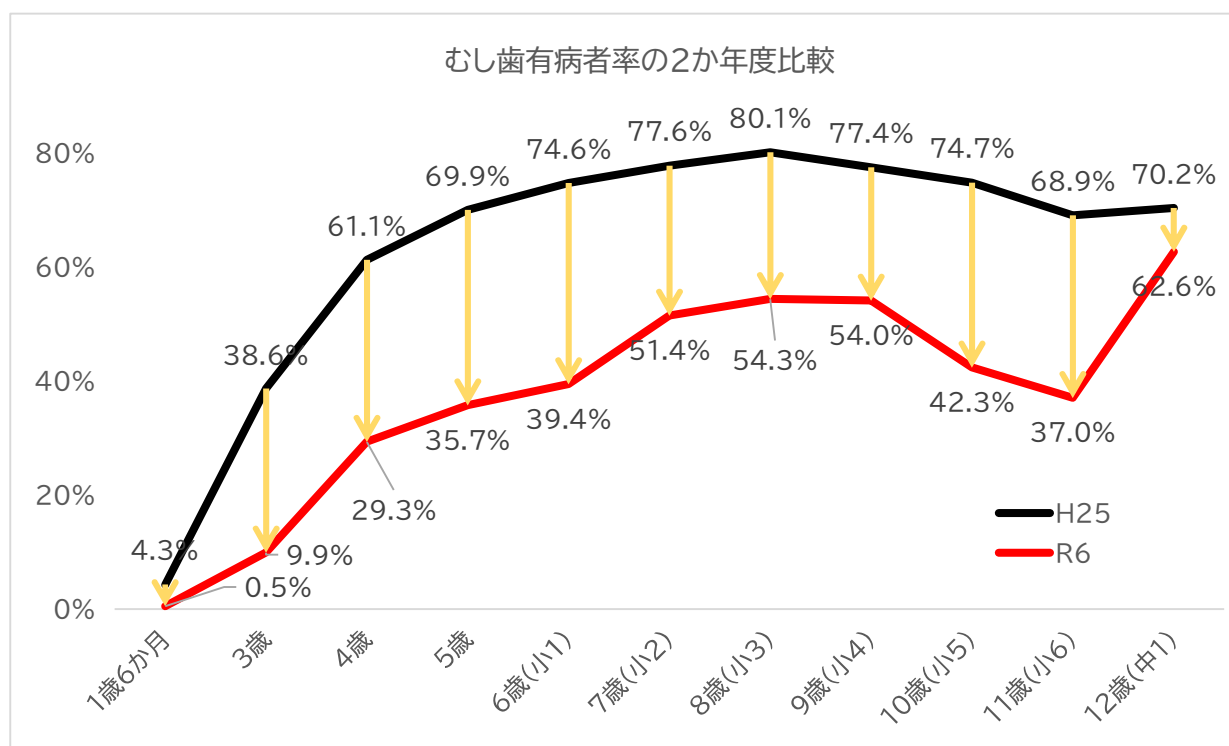


(2) 2か年度比較

平成25年度と令和6年度を比較したところ、すべての年代で改善していました。

これは、平成25年度から開始した集団のフッ化物洗口の成果とも言えます。

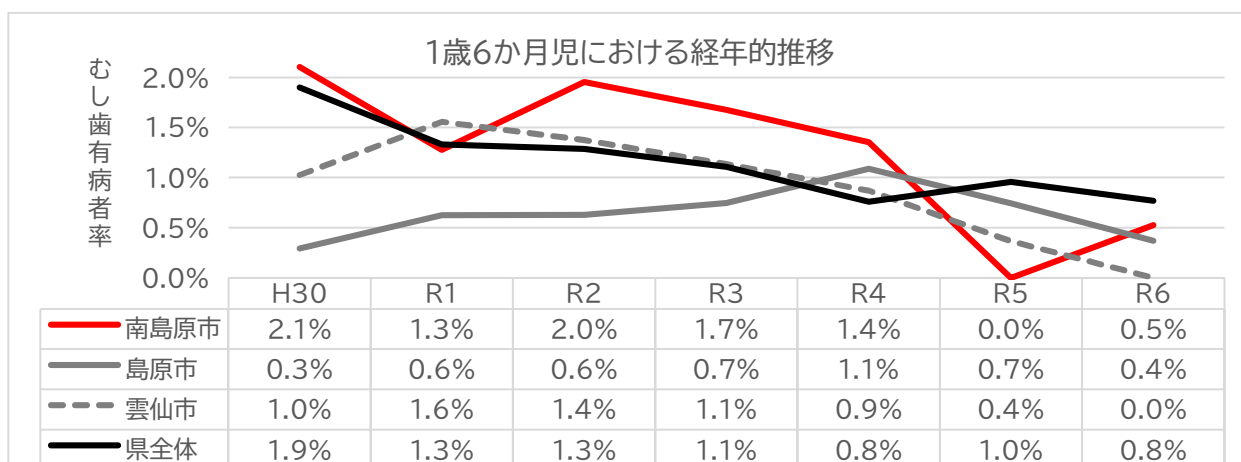
今後は、乳歯が生えそろう3歳までや、乳歯から永久歯に生え変わる時期の小学生に対して、**糖質の上手なとり方やブラッシングの指導を含めた歯科保健の推進強化が必要です。**



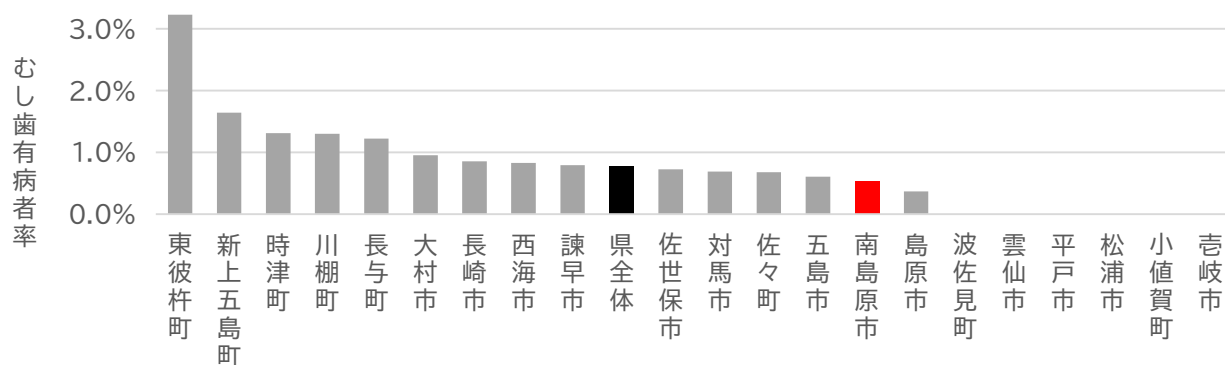
2 南島原市と他市町と比較しました

(1) 1歳6か月児

1歳6か月児のむし歯有病状況は、徐々に改善し、直近2年間連続で県全体以下となりました。

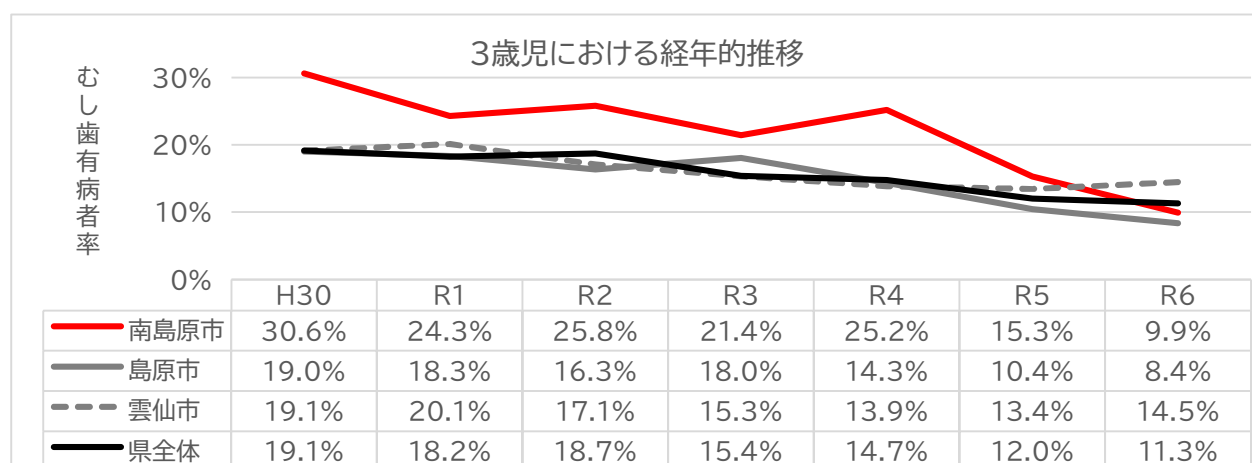


《令和6年度》1歳6か月児における県内比較

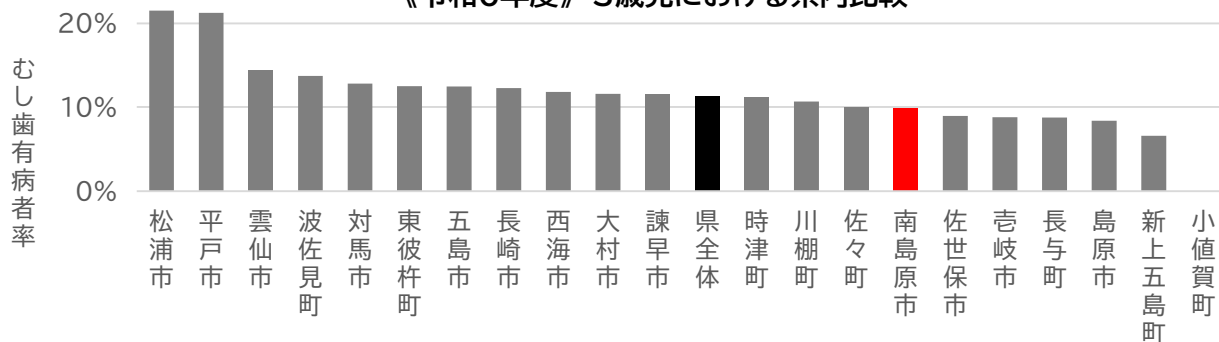


(2) 3歳児

3歳児のむし歯有病状況は、徐々に改善し、令和6年度、初めて県全体以下となりました。



《令和6年度》3歳児における県内比較

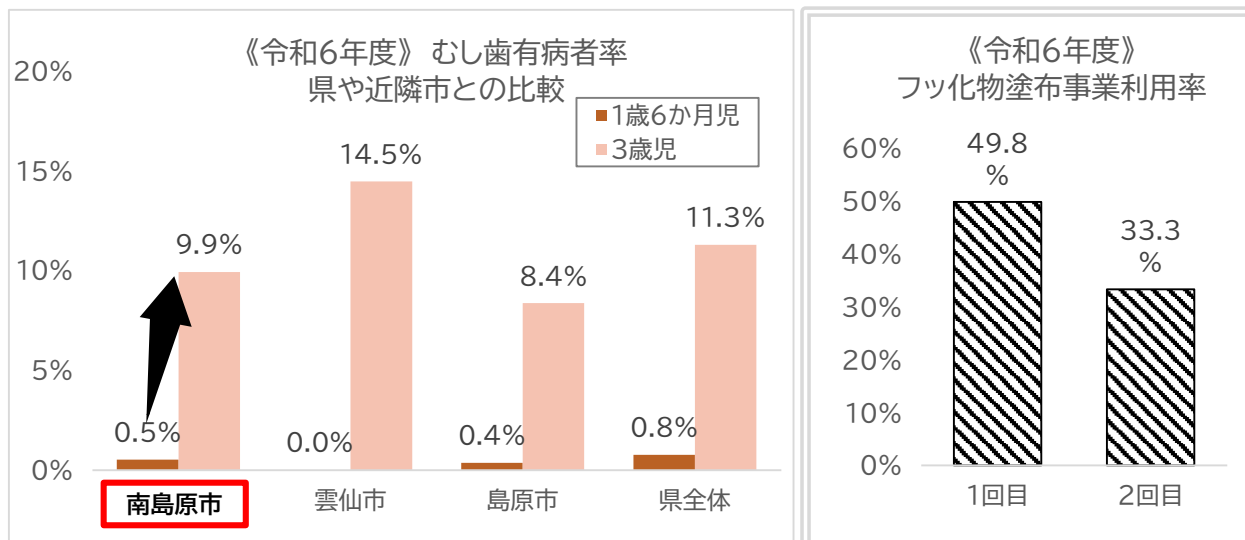


(3) 1歳6か月児と3歳児

むし歯有病者率は、1歳6か月児健診と3歳児健診で急増します。

乳歯が生えそろう3歳までは、甘いお菓子や飲み物の制限や仕上げみがきの徹底など家庭でより丁寧なケアが必要です。

また、フッ化物洗口ができない1～3歳児を対象とした「フッ化物塗布事業」では、歯科医院でフッ化物歯面塗布と同時にブラッシング指導も受けられますが、利用率が50%弱と低迷していることも課題と言えます。



(4) 12歳(中学1年生)

12歳(中1)のむし歯有病状況は、徐々に改善していたが、令和6年度は悪化に転じ県内順位は8年連続でワースト1位となっています。

永久歯が生えそろう時期の小学生に対する取り組み強化が必要です。

